

学校ボランティアを再開

実践的指導力を身につけるために

4年の宗像梨奈さんと鈴木晴香さんは、教員採用試験が一段落して、あと半年後に自信をもって子どもたちの前に立ちたいという願いから、保原小学校での学校ボランティア活動を再開しました。



宗像さんは、3の1をホームベースに活動しています。4校時は、ミュージックフェスティバルにむけて、学年でパートに分かれての練習の時間で、宗像さんは木琴を任せられました。昼休みも練習しました。

実践的指導力を身に付ける

4年 宗像 梨奈

学校ボランティアを再開した理由は2つあります。一つ目は、子どもたちと直接関わる中で学びを深めていきたいと思ったからです。教員採用試験の勉強をしている期間、子どもたちと関わる時間がほとんどありませんでした。再開して実際に子どもと関わることで、来春から教員として働くという実感を伴うことができる考えたためです。まだ学生ではありますが、これから教員になるにあたって、現場で必要とされる力を自分の活動から学んでいきたいと考えています。

二つ目は、実践的指導力を身に付けたいと考えているためです。私が最初に学校ボランティアを始めた際、それまで想像していた教員という職業と実際に目にした先生方との間に差を感じました。自分が自信をもって学校現場に出られるようにするためには、実際の学校現場の先生方の姿を見たり先生方と話したりする中で学び、学んだことを活かして実践していくことが必要だと考えています。学びをしっかりと整理し、実践できる機会を自分から作っていけるようにしたいです。

私は学校ボランティアを再開するまで、児童理解をどのようにしていくか、子どもたちの姿をどのように捉えていくかに重点をおいて活動をしてきました。しかし、よく耳にするのは、「教師は授業で勝負する」ということです。教員と子どもとの信頼関係は、毎日の授業があるからこそ築けるものでもあると考えています。授業をする機会もいただきながら、再度自身の学びを深めていければと思っています。

「適切な指導」って、具体的にどうするの？

鈴木（晴）さんは、清掃の時間に6年の班長Aさんから、「5年の男子がふざけて清掃をしません。注意しても言うことをきいてくれません。どうしたらよいですか」と相談されました。鈴木（晴）さんも、その子に注意したのですが、効き目がありません。採用試験ではそのような場合、「適切な指導をする」と解答しますが、具体的にどうするのか悩みながら取り組んでいます。

自分事として受けとめる

4年 鈴木 晴香

私は先月教員採用試験を終えました。試験勉強をしている期間は辛かったですが、この間に私は今までの学校ボランティアでの学びを整理し、試験に臨むことができたと思います。自分がこれまで学んだことを実際に現場に出た時にどのように活かしていきたいのか考えることができました。

そして今月からまた学校ボランティアを再開しましたが、採用試験前とは緊張感が全く違います。今まではボランティアとして現場の先生方の指導力に驚嘆したり、子どもの成長に驚いたりしているばかりでした。しかし、採用試験を経て自分が来年度からひとりの教員として子どもたちと向き合わねばならない、と思った時にこれからは学校ボランティアを継続していこうと強く思いました。

学生ボランティアであるということは試験前と変わりませんが、「もし自分が教員だったらどのようにしようか」と考えながらこれからは活動にあたりたいと思っています。そのために今、大切にしていることは「子どもの行動の裏に何があるのか」考えることです。子どもが何かもじもじ言いたそうにしている時、怒っている時、悲しそうな時、なぜ子どもがそういった心情になっているのか、子どもに問いかけながらみていければと思っています。また、先生方の発言や指導を勉強させていただきながら、自分ならどうするか考えたいです。そして、これからはより自分事として活動していけたらと思います。

鈴木（晴）さんは、6の2をホームベースに活動しています。3校時は、試験問題の印刷でした。昼休みは、子どもたちとお話をしました。



【問合せ先】 学校ボランティア支援室は、疑問、困りごと、要望、相談に応じます。

（理工107 e-mail：齋藤幸男 ysaito@educ.fukushima-u.ac.jp

二瓶洋允 hnihei@educ.fukushima-u.ac.jp

荒木藤夫 faraki@educ.fukushima-u.ac.jp

【相談時間】 月～金（9:00～16:30）

【体験訪問】 水曜日は、保原小学校で全校『学び合い』を体験できます。